

# 総 括

夏期日本語教育ディレクター  
根津 真知子

今年度の夏期日本語教育は約 20 カ国から 104 名の受講生を受け入れた。7 月 5 日のプレースメントテストに始まり、8 月 13 日の修了日までの 6 週間中、最初の 2 週間は雨続き、そしてその後の 4 週間は記録的な猛暑が続き、受講生は体力的に非常に大変であったと思われるが、幸い健康上の理由によって途中で続けられなくなる受講生はなく無事に終えることができた。

## 1. 教 務

### 1. クラス編成

C8 (帰国生レベル) に部分的に該当する者は数名いたが、C7 の人数も少ないこと、またフローティングが 4 名しかいない中、C1、C3、C5 を 2 セクションにする必要があったため、C8 は開講せず、7 レベルを開講し 20 名の講師が担当した。各レベルの人数は以下のようになった。

C1	20
C2	16
C3	21
C4	12
C5	18
C6	10
C7	7

### 2. カリキュラム

本学の日本語教育プログラム (JLP) のカリキュラムに合わせて、70 分授業を 3 コマずつ、月曜日から金曜日まで行った。午後の文化プログラムへの参加は基本的に自由参加としたが、多くの受講生が様々なプログラムに参加した。

### 3. 授業見学

授業開始後 2 日目の 7 月 7 日から 2 週目の終わりの 7 月 16 日にかけて、20 名の講師の授業見学を教務主任とディレクターで行い、見学当日の午後それぞれのコースごとに面談し、フィードバックを与えた。後半 2 回目の授業見学も部分的に実施した。

### 4. 授業ヘルパー

今年度から新しい試みとして、授業ヘルパーがコース前半の 3 週間は 3 名、後半は 2 名 (曜日や日にちにより入れ替えがあり、総勢 12 名) 講師室にいて、教務の手助けをした。当初は 1 日 3 人体制でする予定であったが、コース途中 1 日 3 名は必要ないということで、2 名に変更した。

## II. 住居

### 1. ホームステイ学生との個別面談

ホームステイ学生 21 名に対して、プログラム開始直後の 1 週間目に個別面談を行った。幸い大きな問題もなく全員がコース終了までホームステイをした。

### 2. 寮

昨年度までのグローバルハウスに加え、今年度から樺寮の使用が可能となり、73 名の受講生が寮に滞在した。住環境の設備が整備されたことにより、昨年までと比較して、1) 全体的に受講生の身体的健康状態が良好に保たれた、そして 2) 学習面で、従来は午後の時間帯に図書館でパソコンを使用しなければならなかったが、寮での有線 LAN の使用が可能となり、受講生への利便性が非常に高まった。

受講生の大半が住環境の整った寮に滞在できたため、猛暑にも関わらず熱中症や重篤な病気にかかる受講生は幸い出なかった。

## III. その他

### 1. カウンセラー

今年度から正式に日英バイリンガルのカウンセラーが 1 名、月曜日と水曜日の午後 1 時から 5 時までで配置され、受講生および講師からの相談にのるなどの心のケアに当たってもらった。夏期日本語教育期間中の利用延べ回数は 8 回と限定的であったが、最近ではカウンセリングを必要とする受講生もいるので、来年以降も続ける方向で進めることが望ましい。

### 2. 看護師

期間中毎日 9 時から午後 5 時まで看護師が常駐してくれていたおかげで、受講生も講師もスタッフも安心してそれぞれのすべき事に専念できた。

### 3. 富士山登山

昨年度までは富士山登山に行く受講生が何人もいて、昨年度は旅行社 HIS が企画するツアーのみ参加させた。しかし、旅行社側の説明にもかかわらず、軽装備で参加し、登山後の週の体調不良による遅刻・欠席が多く、学習に専念できないという報告が出されていた。受講生の学習を最優先させる事を念頭に、今年度は夏期日本語教育開始前にメールで、そして開始後は歓迎会で、サマーコース期間中の富士山登山は許可しない事を受講生に伝えた。